

診断指導事例

最近のADSL（電話線をつかって高速伝送する方式）、FTTH（光ファイバーを家庭まで敷き高速伝送する方式）の急速な価格低下と普及によって、常時接続が手軽に利用できるようになった。しっかりとしたセキュリティ防護をとってこれを利用することが倫理として必須である。（後述）

SOHO（自宅、小規模オフィス）にホームサーバーを設置して、ここにホームページをUpする。ホームページの大きさの制約がないので、画像を多く取入れたページが可能となる。公表して良い労災事故などの事例の画像を使えばアピールするものとなる。また、内容の追加・修正が迅速にできる。欠点はホームサーバーに必要な疑似DNS（名前検索）機能の提供がまだ少ないことである。

コンサルタント会ホームページへの登録とその他へのリンクを張ること

コンサルタント会ホームページは<http://www.jashcon.or.jp>である。この会員ホームページリンク集/国内の安全衛生コンサルタントのHPに載せてもらうことを本部に依頼する。関係の深い機関、団体、コンサルタントなどのホームページにリンクを張るには記述したように、そのURLをハイパーリンクとして指定すればできる。但し、マナー（エチケット）としてリンク先の了解を得て行うことが必要である。また自分のホームページのなかに自作と思われるような形で他のホームページをリンク付けすることは著作権の侵害となる恐れがある。

イ. 情報収集活動（最新状況の把握）

関係機関等情報源ホームページ〔厚生労働省、コンサルタント会、労働安全研究機関、労働災害防止団体、国際規格（ISO等）〕にアクセスして最新の情報を入手する。例えば労働安全衛生に関する法律、省令、規則、条例などの改定は直ぐにこれらのホームページにUpされるので必要に応じ、印字出力すれば顧客指導時に有用である。海外技術専門家派遣機関（JICA、JODC、APOなど）ホームページへアクセスし、労働安全専門家の派遣事業の有無を調べる。適合する事業があれ

ば応募する。

労働安全情報ML（メーリングリスト）への参加

ホームページへのアクセスはこちらからしない、また、所要情報を捜さないと捉えられないが、MLはメールアドレスを登録して置くと、メールで情報を送ってくる。法令等の改定、関係する重要情報が漏れることが少ない利点がある。またMLの他の利用法としてコンサルタント同志の情報連絡、情報共有に有効な方法である。東京支部城西業務部会、マネジメントシステム研究会では、無料のMLサービスを使用し、有効に活用している。会員の限定されているMLは閉域接続と言えるのでここでの情報提示は一応自由であり、知的所有権が関係する内容も公表とは見做されない点で気軽にできる。

1.2 業務受託契約

連絡手段としてメール、FAXの利用

相互情報交換手段としてホームページ（顧客側、および受託者）の利用

初めて接触する場合には、事前に互いの概略の様子はホームページにUpした情報で知る事ができ、メールでやり取りした後、一度面談して契約に調印すれば、直ぐに業務にとりかかることができる。ホームページを見て、業務依頼して来る顧客の事例もある。

契約書作成にワードプロセッシング・プログラム（WORD、一太郎、クラリス等）を利用する。

留意事項：顧客の機密を守ること。安衛法86条によるコンサルタントの守秘義務によって、顧客の重要機密事項の含まれる連絡時は暗号化メール（PGP暗号等）が必須である。

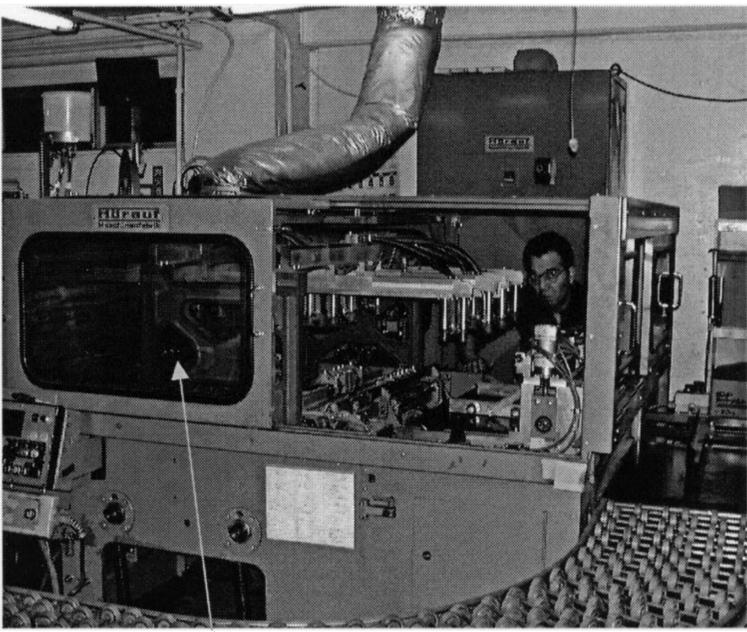
また、e-Japanの今後の展開を考慮すると、電子署名法が成立しているので、文書及び重要事項連絡のメールへ電子署名をする必要がある。従来の紙による印鑑証明書に相当する電子証明書付きの公開鍵を使った電子署名が用いられる。今後公的個人認証基盤の整備によって、この証明書が公的証明書となり、これを付けた公開鍵による電

続紙

画像貼り付け報告書(例)

機械設備
の安全化
について

断載機の
安全化
調整作業
時



安全カバー

断載機では鋭利な刃が使用されているので稼働時にはカバーが防護し、カバーを明ければ電源が断になる。しかし、新たな製本に合わせる調整時には、カバーを明け、安全装置を止めて作業する。このときには剥き出しの鋭利な刃が出ており、危険度が高い。言わば作業者は危険状況を綱渡りで作業しているとも言えます。労働災害発生概要6. は稼働時ですがこれに近い状況下(出ている刃に手のほうが当たっている)と見なせます。

この危険度の高い状況下にこそフェールセーフの考えを適用することを推奨します。

して、どのような形式であれ、インターネット接続する時はアンチウイルスソフトの装着、さらにはパーソナル・ファイアウォールの装備が望まれる。アンチウイルスソフトの利用に際し、最新のウイルス定義をダウンロードしておくことが肝要で、1日、あるいは1週間遅れたためにウイルス被害にあった事例も聞く。この煩雑な処理を自動化した機能が最新バージョンでは提供されている。例えばNAV(Norton Anti Virus)ではLive Update 機能でインターネットに接続時にバック

グラウンドジョブ(ユーザーが指示なくとも、メールの送受信中、あるいはホームページを見ている時に、バックグラウンドで動作する)として自動的にウイルス定義の最新版があるかをベンダーのホームページを見に行き、あれば知らせる窓を表示したり、さらに進んだものは自動的に最新定義ファイルをダウンロードし、イントール(ウイルス定義ファイルの書換え)まで行う。バックグラウンドジョブの起動はWindowの「マイコンピュータ」にある「コントロールパネル」の

